滋賀県工芸美術協会展

陶芸・染織・漆芸・木工・金工・籐芸・硝子

On Line Exhibition

滋賀県工芸美術協会展 検索

令和2年 12月1日（火）～12月31日（木）

第50回
滋賀県芸術文化祭参加事業 草津市文化振興条例施行・計画策定記念

＜主催＞ 滋賀県工芸美術協会

＜後援＞ 滋賀県・滋賀県教育委員会・草津市・草津市教育委員会
公益財団法人秀明文化財団・公益財団法人平和堂財団・京都新聞・NHK放送・NHK大津放送局

<table>
<tr><td>行　事　名</td><td colspan="4">第52回 滋賀県工芸美術協会展　On Line Exhibition
（第50回滋賀県芸術文化祭参加事業）</td></tr>
<tr><td>主 催 者 名</td><td colspan="4">滋賀県工芸美術協会</td></tr>
<tr><td>期 日（間）</td><td colspan="4">令和　2年　12月　1日（火）　～　令和　2年　12月　31日（木）</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="4">第52回 滋賀県工芸美術協会展　ウェブ上での公開</td></tr>
<tr><td>参 加 者 数</td><td>30 人</td><td>入 場 者 数</td><td colspan="2">アクセス　12．577人
（内サイト閲覧　3.081人）</td></tr>
<tr><td>参　加　料</td><td>会費</td><td>入　場　料</td><td colspan="2">無し</td></tr>
<tr><td>開 催 状 況</td><td colspan="4">会員30名が出品。立体17点平面13点の計30点をウェブ上無料公開。内容は陶芸12点、染織12点(内着物２点)、漆芸２点、硝子・金工・木工・籐芸の各1点をビオラとピアノの演奏をバックに全体的に作品を紹介し、また１点ずつ拡大し質感等細部をみていただけるよう画面を工夫した。サイト画面では制作意図や略歴も公開した。第52回展はコロナ禍によりウェブ展に変更することとなったが、今迄来場していただけなかった湖北や近隣府県をはじめ各地の方々から平面・立体部門共充実した展覧内容を癒される音楽とともに出かけずにみることができたと大変好評であった。</td></tr>
<tr><td>後援団体</td><td colspan="4">滋賀県、滋賀県教育委員会、草津市、草津市教育委員会
（公財）秀明文化財団、（公財）平和堂財団、BBCびわ湖放送、
京都新聞、NHK大津放送局</td></tr>
<tr><td>広報活動の
方法と範囲</td><td>方法</td><td>チラシ　2000　枚
DM　2000　枚</td><td>範囲</td><td>滋賀県内及び近隣府県の教育文化施設、団体及び報道機関</td></tr>
</table>

第 50 回滋賀県芸術文化祭参加事業

第 52 回 滋賀県工芸美術協会展 On Line Exhibition 出品目録

会期 令和 2 年 12 月 1 日(火)～12 月 31 日(木)

種目	出品者名	作　品　名
陶芸	加藤　和宏	釉線彩大鉢
〃	加藤喜代司	炭化窯変二重菱形皿
〃	加藤　敏雄	彩泥文と象形
〃	神﨑　継春	信楽緋紋壷
〃	神山　直彦	信楽窯変面取器
〃	木村　　隆	天目釉鉢
〃	小嶋　一浩	黄昏に翔ぶ
〃	小嶋　太郎	小春日和
〃	髙橋　政男	雪解
〃	竹村　智之	明日へＶ
〃	中井　和仁	黒の偶像Ⅱ
〃	西郡　　公	灰釉しのぎ花器
染色	楮谷　陽子	めぐり来る
〃	菊池　睦子	白夜Ⅱ
〃	田川　泰子	何だろう！
〃	中條　芳徳	食虫植物
〃	増田　晴香	帯
〃	丸山　敦子	Recycle Town Ⅲ
〃	三原サダ子	夕日の三島池・一本杉
〃	宮﨑　芳郎	ピラミッドのある情景
染織	平井　恵子	Vitamin をどうぞ！
〃	今井　きよ美	暁に祈る
〃	菊　　徳子	風の影
〃	濱地　弘子	うたのはじまり
〃	廣田　千惠	微風
〃	藤井　　收	刻を想う
籐芸	北川美千代	縄文の刻
木工	臼井　浩明	“TRIO”テーブル
金工	小林　正雄	「くじゃく」　象嵌飾箱
硝子	宇部　裕子	Deep breath

第52回滋賀県工芸美術協会展
On Line Exibitionを終えて

来場者・会員の声

・音楽での演出や作者の略歴等を見ることもでき、オンラインだからこそできる展覧会となった。
・県外の方や会場に足を運べない方にも楽しんでいただくことができた。
・初めての試みで手探りな部分もあったが無事開催できた。
・コロナ禍を契機として新しい試みに前向きに挑戦することができた。
・今後、会場での展覧と同時開催していきたい。
・実際の作品よりもドラマチックになりすぎるところがあった。
・ウェブの展覧会を初めて観て感動した。
・次回も楽しみ！続けてほしい！
・会のホームページを作成するための良い勉強になった。
・コロナ禍に中止しないで前向きに活動されていてすごい！

今後に向けて

・サイトの設計上分かりにくい点もあり、今後の改善に役立てたい。
　例：経歴などの情報への遷移方法が分かり辛い点
・インスタグラム等のSNSを活用するなど、より広く観ていただく工夫をしたい。
・チラシやハガキの活用方法について今一度検討したい。
・今回の試みを通して、オンラインの新しい可能性にも触れることができたため、予算配分などを再考したい。
・文化芸術領域におけるIT化のため、知識・技術・経済的なサポートが今後より一層充実することを期待。